

新鳥文庫

全

中村俊定文庫

文庫 18

973





氷ひのり様り

北山抄略書

若腹赤不來者唯萎冰様

上子日供若菜

上卯日献御杖

正月や涼山住持もくわ柳 貞徳

涼山路もあゝとくみ紅糸瓜 全

くさねまわりのまさらぬき水伊豆十河 丸 松

元りハ輝し二万を何もち郡山 粒此粒

割うけ扇や露とく中くわ伊豆十河 丸 松

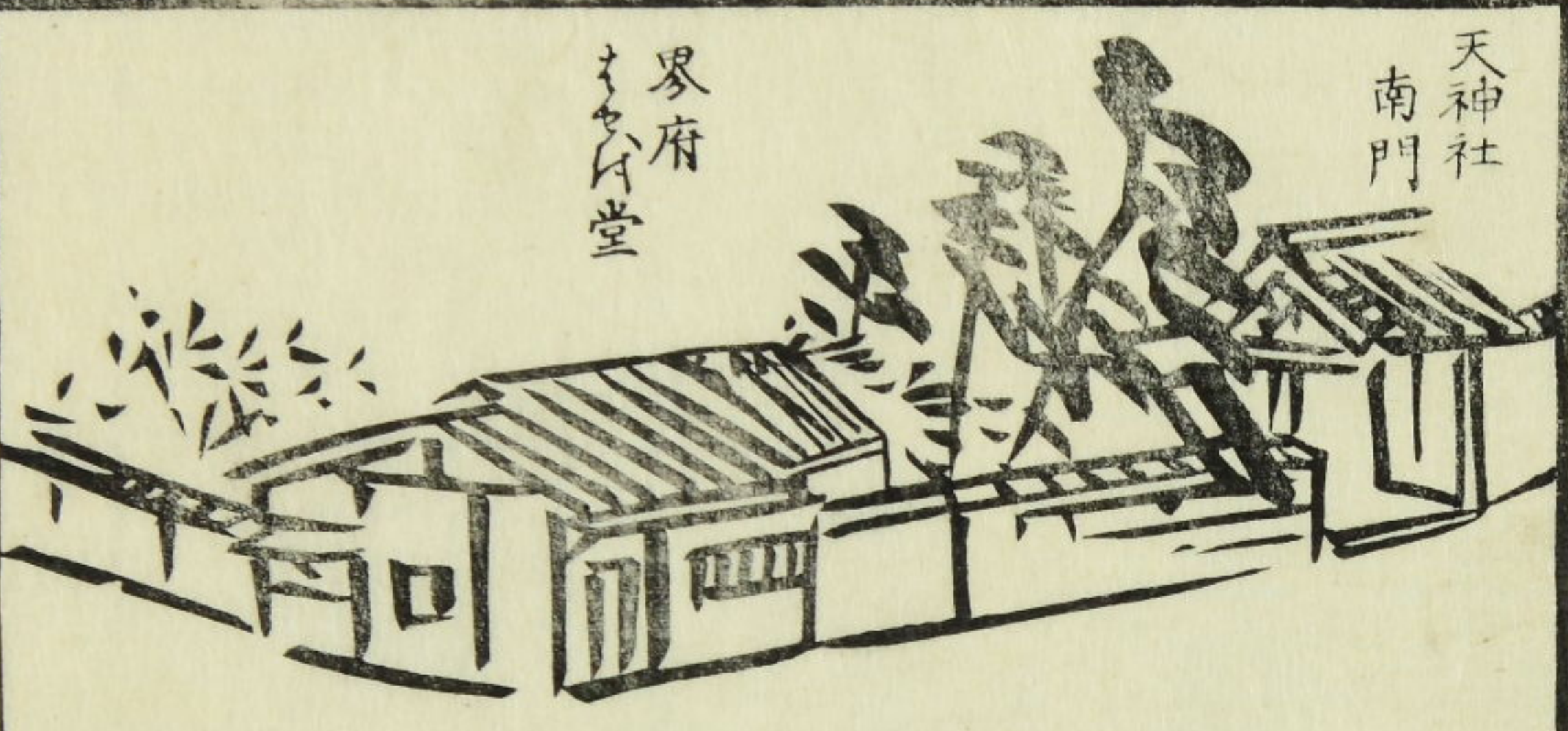
暁のそのらけわのわ福茶餅 風光



水のたけハ氷室より氷を
 朝のよその氷の厚さを
 ため寸厚き入り一層きハ
 五年トス氷の初
 大は総括せぬま

天の原のわかしこ
 おおきくわかしこ
 あつたのひろくさのえ
 くのりか
 井眉

福来のまふま位をさあろ
 人のやまハ一羽 祝ひの中ナハリ 野糸
 小杉くくくろま杉のけし
 粥をや 粥人の雪のつりか 公 隆
 永きりやま 柵の柵のかき層 山中 如 丘
 長閑さのわかしこ 竹のまろ 丸 松
 長閑さのわかしこ 磯の原の音 久 弦
 長閑さのわかしこ 磯の原の音 井 竹 女
 長閑さのわかしこ 磯の原の音 素 玄
 長閑さのわかしこ 磯の原の音 野 菊



天神社 南門

畠府 土倉堂

世はまきこ 竹のけし 雲山 新 水
 初東風やうわかしこ 杉のまろ ナハリ 丸 松
 東風はわかしこ 磯の原の音 玉 船
 長閑さのわかしこ 磯の原の音 太 阜
 長閑さのわかしこ 磯の原の音 井 圃 イヨ
 長閑さのわかしこ 磯の原の音 杉 園 ナハリ
 長閑さのわかしこ 磯の原の音 全
 長閑さのわかしこ 磯の原の音 久 弦
 長閑さのわかしこ 磯の原の音 野 菊 サカヒ

新の多き住不也
 幸未慈 世々性花
 岩よりすもかありま
 のも空の人 松葉
 滝葉うくあやな葉の
 門ありて 伊予
 原武画の心海も申りや
 ころり 五百丸

山谷詩集

龍焙東風魚眼湯
 筒中即是白雲
 更煎雙井蒼毫
 始耐落花春日長

魚眼井葉ト更テ
 文まのりくくく
 茶ヌ存の瓜の名

持鉢の味うくきり 井葉
 うは白



春風菴魚眼更竹葉浪花
 之人在畧府芭蕉堂

アルト 這詩ヨリ出カ

畧府妙因寺
 名てうき義法う
 身後人のよく知



うくはすわゆま似て持水 曰人
 葉のちへるさぬま何きか 之智
 葉より吹失のゆははまうりり 中
 葉やあくの智志門めゆ 全
 うくはや思は出せしむり 属中
 ふ月の中は山路あまはまき 中葉
 うすしりきふ別く百あき 全
 おくくはるの司く百あき 全
 葉くくはるはくくくく 自乐
 うくの智はや山田の小きり水 相魚

いま清くもなまこひ路よ
 角
 字と指ふるくらさこひ
 日のなきき 全
 手取道をもかきこ
 せり 實
 底ふむ馬しるしに
 牡丹ちりせりもさ
 なく 矣
 朽くきて夏とさえ
 さやのまやうけ 角
 妹のすくたにゆせ
 至もかく 矣
 乃まこいぬきまに
 天くもり 角
 紙子れ物さの討よ
 侘るれ 矣
 井の水と山科中の
 一うて 角

江州彦根藩士
 橋本衛門六
 芙蓉直采三
 別号槐郷堂



程位さぬ 兜も
 あり
 月をいしるし路
 きたも 角
 又まもきくつ勢
 貞観の勢 矣
 けをわてとせぬ
 世教のうや 角
 雨を嫌う地氣
 出る 矣
 横道の羽織さあ
 得新年 角
 三斗をさうの糸
 信 矣
 名婦の水い流
 さすも 角
 勝る鳥たさし
 於 矣

陸奥よの雲門のわな葉は日 大橋
 十六
 万まわりや小まうまふ信し路 松園
 十九
 於處浅るけりさそやふし 狐笑
 二十
 都へと見ゆて煙や小路の山 華實
 二十一
 稲倉ふ神もえはま風はほま 孤山
 二十二
 苗代や落葉の氷れまきみ 楓谷
 二十三
 赤くらねはやまの鳴の啼 指月
 二十四
 鯉魚の折小まきくはせま 杉葉
 二十五
 ちりさた粒さしり折さ 素通
 二十六
 山青くならや物の足城しる 葵門
 二十七

日道人の金津の山乃
まの山より十重子とて
送るれもさき水の人
おまの葉をいへれ
かたしうき草や

南休

橋はるる乳をうらうらと
枝うのこ カヒ 世深南

まーれあくほとや葉を
まろ山九家 展中

池沼の草花をば
けい免はば

初花の草花
くはくはくはくは

華實

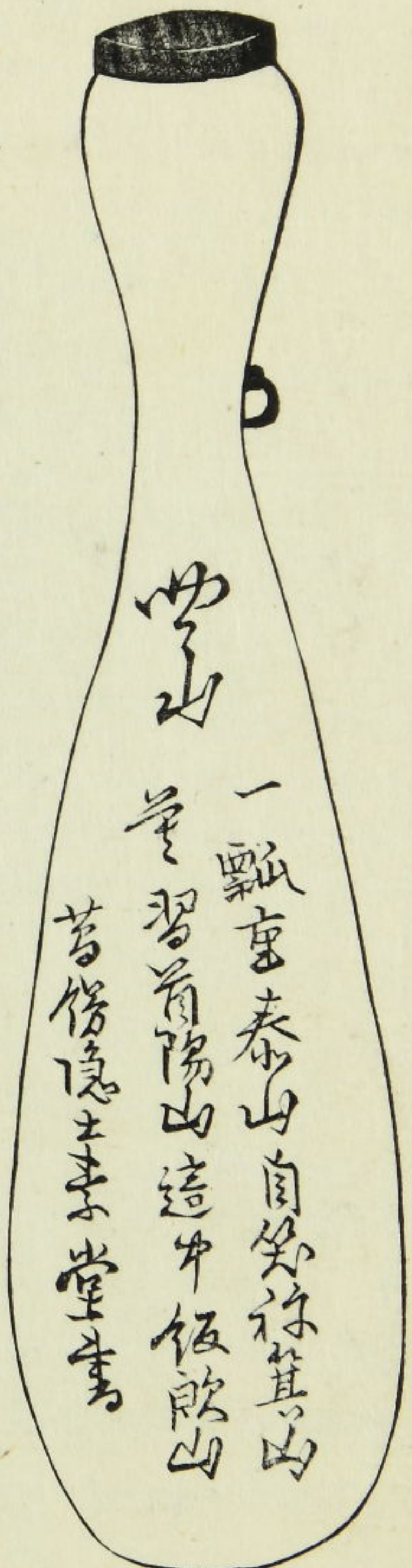
漢國是非未休
猶桃日月僕日東
尺牘投與蛟龍道
莫波駕駕尊師
老をいりの経み未終
まろく経いよと
國性爺乃詩をよ

洛北岩野大徳寺中
毎歳元朝に無誹の
龍巻をばつら古規也
とぞ又
園花園め心寺うへえ日
白粥ふ蕨汁を食す
半四食なるより共
直指蒼大鱗和尙乃
話ふゆのまろ

松栢よふのふおあるる
まに野や若すおまにの葉うハ
蘇防のふの古歌まおとまらま
けらまて池をいれまし
敷くけや日紅清きて後まの巻
川餅して葉を四五折るま
道るま水伝うまて映乃ま
方ぬの風あうまや物活白ふ
春をまてあまはるまのまをえ
まのまをまてまをまて
千鶴 仙中富山
如丘 ソルカ
野鶴 伴舟
左阜
菅川
春芳 江長
貞緒
杜園 ふか
天田 ふか
東朝

かのふやえやうま
葉はるやま乃まのむ日ま
恒一重うま世福ま末蓮花
物移とえ移と山一柳橋
雪解の水をいつま初ま
奥山まあま知まはる
まをり入る橋にま
七り起まやまらま
ふのほくまの風まらま
まらまの風まらま
松まらまの風まらま
不白
其坐 ルカ
五不丸
一峰 アノ
野水 堀口
那葉
全
菅川 クノ
丸 名法
松 作
一橋

芭蕉翁茶櫃之圖



昔もあつたつても有る
 春のけり
 こけり
 鬼気
 雀の子
 十人
 袋
 茶
 油

茶櫃
 芭蕉
 其習
 昔傍
 隠士
 来堂
 堂

壬生
 不白
 足
 竹
 其
 画
 其
 其

駒
 小
 池
 水
 小
 其
 本
 蝶

船といふ牛は在り
鳴くも所の聲は
いづく

雪蔭は葉ひくうも
雪を青くくく

在信光

湖石

杖のた乃らさらえで
さく 其誓

麻袴鳥のゆきうも
春風よ 全

雪ちのひやうたうぬ
柳うま 夫リ
乳

何とあふもくはる月けの鶏 信光 陸花

氷をさるもあふかし進夏はる 其誓

卯け鳥のかちも定らす夏月 春井

同くくゆる青葉は信光や助銀 丸堂

采子鳥四月と信光目を啼く 信光 一橋

夏を信光もくはるす字子も 松原 時永

麻袴は信光は信光くく子 其誓

汗湯のぬき傘つくとくく子 五不磨

采子鳥の采もあふも信光くく子 霞舟

あはると思ふも信光くく子 夫リ 可明

井高菴里堂別号井高
通名安樂寺湖東郡日野
日溪二法門里高菴精舎に住ス



あふも
井高菴の
そとくく子

初年や首と信光
まゝ春り 信光 文寄

里高菴

身ももに咲せておや
 人のこゝろ エト 何丸
 かき割うくらひ打てる
 押さぬ 口 雪雄
 鳥さしひらねん
 きか 口 杜英
 こゝろの戸の エト 蕉
 まゝの エト 蕉
 けい 口 護お
 ま 口 抱儀
 ま 口 葵お
 けい 口 葵お
 こゝろ 口 葵お

お カク 成之
 悔悔や馬 カク 丸相
 脊 カク 孤静
 ころ カク 井井
 唯 カク 岩
 若 カク 量
 古 カク 門
 此 カク 持
 老 カク 華實



夕十ハ坂上
 梅旧禅院二柳葺塚
 院中々々々々本係乃係
 アリ

けい カク 素
 峰 カク 其督
 我 カク 里童
 閑 カク 千独
 水 カク 茶城
 乃 カク 茶城
 打 カク 如毛
 不 カク 若岩
 経 カク 性
 後 カク 全
 若 カク 狸鼓

二柳翁二十五回忌追福

佛燈之連歌

青柳やまうらうとりの
のぼりの 井眉
二十五年おまよふ
せうた 亜井
藤のつるをさうせり
鹿こつて 六羽
よれ人住さかすけ
つらね 桑外
小雀うさぎのたを
かちり 南休
馬丁やちい 安ふ
鈴かけ 千花
杜の月心見さほいハ
ゆづり 竹巢

くしのりもさハまうらうけい 不白
人と子声おろけや花胡蝶 糸系
からけの風はまき小塔の 松園
日け山乃うねやひまき 丸雲
いづや垣の隣紅鶴一羽 楓谷
神の本ふさふさや差のふね 風走
藤柳よせハまうらう二雀 千鶴
糸にせうとまきまて松の盛ん 東園
東風吹や柳うらや 舟二般 小枝女
又まの道へ入りあすは 可明

草花をまもて 主務、
もまきぬ 井左
あつたお例より 貞清
ゆておき 貞清
種のおき所は 井竹
せぬ 井竹
伯母ういよに 糸系
糸系 糸系
うけを打てて 糸系
ものつへ 糸系
すれまゝのもの 糸系
えりてあり 通樂
おきぬおきぬ 五琴
土壱 五琴
藤のまは古き 全和
風よあま 全和
とつたけりハ 井羽
あつたハ 井羽
まの時 井羽
くつり 井羽

井吳菴自樂別号一石舎
浪花舟所ニ居井眉菴門人



散々
一日はハ
自樂

錦の夜さうりさる
 いまはま 臣書
 出とる存の終し
 うはくく 友之
 塩花いり人の 二好
 ゆきま 田あり書也
 田舎や紀 自朱
 名子すらくた声
 占候哉 東雨
 春風とまきうらた
 水に激流 一匡
 うさしは雑多の歌
 ねとく 井二
 梓弓矢を射る的と
 土子しほき 呂調
 彫ふたちそよまの
 歌石
 古一順 赤墨

糸梅よ常は源と成る
 葉さうや四五本枝くの朝乃月 貞猪
 杉山や少くは山乃神と朝 朝光
 山人の氣やあはし推れ 其杖
 岩梨子や名の料後とわらふ 持月
 二月はけしおあ糸鳥 如光
 うさや名をい刺は伊勢芳野 菊庵
 衣はよ豊の中やまは月 櫻子
 水の枝あうさすの落一ツ 風光
 落くは楓と春のまはう朝 成之

蕉竹三世の祖二柳菴
 仙樹の首の末より
 世のついでの時終る
 子と辞して女は是
 少和体守るは後より
 沙井眉宗通八其分樹
 うして枝葉繁茂す
 是すくく柳を徳
 能給定ふよりと
 文政十丁亥年春
 六月廿五日
 長良忌
 朝奠之奠
 法蓮

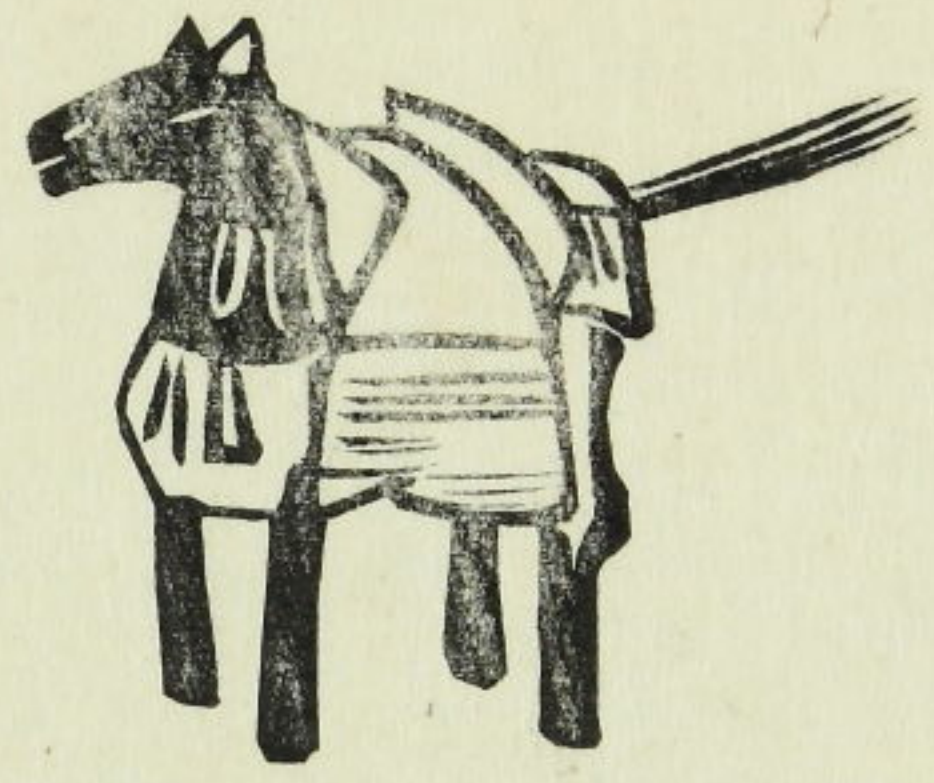
林氏 亞井通名 帝作
 七實舎 別号 啜軒
 東暮里 小西街 二住



水くけてあゝま 亞井
 さくやるおる

更衣すはれのそよぎ
 りよとくは つかと此角
 ちかしくつて 寝るわぬ
 ちかやめを 口 華実
 ちか後の けいさき
 抽の ちかき 口 枕水

貞久三春の冠駒



灯のうら 水鏡 見えて通る 奇松
 ちかき 著れ 乾く ちかき ちかき 一 奇
 たり 利く ちかき ちかき ちかき 如 磐
 苗代 の 唄 よ ちかき ちかき 斗 延
 苗代 や 青い ちかき ちかき 山 此 風
 鶯 の ちかき ちかき ちかき ちかき
 ちかき ちかき ちかき 田 毎 の 月 水 花 朝
 ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき 有 者
 ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき 月 雄

ちかき ちかき ちかき ちかき
 七 夫 寺 休 後 椿 宮
 ちかき ちかき ちかき ちかき
 ちかき ちかき ちかき ちかき
 軒 の ちかき 井 た

ちかき ちかき ちかき ちかき
 金 令 ちかき ちかき ちかき
 ちかき ちかき ちかき ちかき
 ちかき ちかき ちかき ちかき
 下 ちかき ちかき ちかき
 ちかき ちかき ちかき ちかき

秋田御風

初名眉壽后不白 更
 別号月の屋



ちかき ちかき
 傘 河 ちかき
 名 の 門 不 白

